

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部

発行：会長 田中勇次郎

会長職を終えるにあたって



このニュースが皆様のお手元に届くのは、新年度の環境にも慣れ、日々の業務に励まれている頃だと推察いたします。

都士会は役員改選の年でもあり、6月の総会に向けた資料の作成や選挙の準備で慌ただしい時期になっている頃でしょう。

私は、この選挙に会長への立候補はせず、今期で退任することにしました。理由は、長くやり過ぎたと感じたからです。

私が都士会活動に参加したのは、初代大西会長から依頼され選挙管理委員会委員長に就任したことが始まりです。その後、早川会長の時に福祉用具委員会委員長を打診され引き受けましたが、自分が理事になって都士会運営に携わることなど全く興味がありませんでした。そんな私に、田村前会長から会長就任を打診され、会長を引き受けることになったのが2010年のことです。それから8期16年もの間、会長職を務めたことを不思議に感じています。

昔の話になりますが、私が養成校（府中リハ）で留年した時に庶務係長に呼ばれて、「君たちには、年間一人百数十万円、都の税金を掛けている。このことを自覚するように！」と言われました。このことが頭の隅にあったのかもしれません。都士会を都

民にとって役立つ組織にすることが、恩返しのように感じて継続してきたように思います。

この16年間に実施したことをざっと振り返ると、次のことが挙げられます。

1. 都士会6ブロック化（PTと同様にブロック化しブロック長を設置）
2. 都PT協会、都ST士会との3士会会長会議の発足
3. 学術誌の発行
4. 代議員制導入
5. 専任事務局長の雇用
6. 関連機関・団体との交流促進（新年会・年末懇親会等のイベントへの参加）
7. 広報活動の推進（ホームページ・SNS活用、OTの日の新聞広告掲載、ブロック活動として地域イベントへの参加など）
8. 自治体事業の受託（介護予防事業、障害者施設へのアドバイザー派遣など）

会長に就任した2010年は都士会を法人化して5年目であり、会員数も年々増加している時期で、会員管理や法人組織の業務が増え事務所を現在の場所に移転させました。また、組織基盤を安定させること

CONTENTS

- ◆会長職を終えるにあたって…①
- ◆教育部より：生涯学習制度について…③
- ◆都立特別支援学校を「パラスポーツの拠点」に！…④
- ◆事業部アンケート調査回答の御礼と結果報告…④
- ◆子ども委員会活動報告…⑤
- ◆報告：地域づくりサポーター実践報告会&交流会（Café&Bar）…⑤
- ◆「認知症の方との座談会」から考える：病気ではなく「一人の人」として向き合う重要性…⑥
- ◆令和8年度診療報酬改定の概要…⑦

- ◆福祉用具部シーティング研修会「現場で役立つ車いすシーティングの考え方（基礎編）」…⑦
- ◆自動車運転と移動支援対策委員会 研修会報告…⑧
- ◆就労支援委員会委員長交代のご挨拶…⑧
- ◆荒川区防災イベント「あらBOSAI」への参加報告…⑨
- ◆ブロック活動報告…⑩
- ◆まだまだ募集中「教えて！あなたの隣の素敵なOTさん！」…⑫
- ◆編集後記…⑫

を考え、必要な人材を獲得するために府中リハの同窓生や、今までOT協会の事業や仕事上で知り合った方に声掛けして、役員になってもらいました。

府中リハで思い出されるのは、2月5日に亡くなられた杉原素子元OT協会長のことです。杉原さんは、東京都福祉局在職中に府中リハの教員になるために都の奨学金でUCLAに留学し、OT免許を取得して府中リハにこられました。1973年9月だったと思います。私たちは外国人の教員から通訳なしの英語で専門科目の講義を受けたので苦労しましたが、これからの学生は日本人の教員から日本語で講義を受けられることを羨ましく感じました。

1980年、私は府中リハと同じキャンパス内にある都立神経病院に勤務したことで、授業を頼まれたり実習生を受けたりと、杉原さんとお会いする機会が多々あったので、とても身近な存在でしたから、亡くなられた知らせを聞いて大変ショックを受けました。

私もそろそろ終活やACPのことなど考えなければならぬ年だと感じたことも、会長を辞める理由の一つかもしれません。

最近読んだ本に、幻冬舎の「夕桜」があります。「本当に幸せな最期とは？」と言うテーマで書かれた連作短編小説です。著者の岡田公男氏はPTで、都立府中病院（現、都立多摩総合医療センター）勤務時代の同僚であり、この本を送ってくれました。同年代なので同じようなことを感じているのかと思いました。論評はともかく、彼が小説を書ける才能があることに驚きました。そして年を重ねても、「新たなことに挑戦する」ことを気付かせてくれました。

さて、会長として残りの期間、以下の協議が予定されています。

1. 東京都生活文化局スポーツ総合推進部のeパラスポーツ事業への協力
2. 東京都 福祉局 障害者施策推進部施設サービス支援課 障害者支援施設担当のリハ職派遣事業への協力
3. 学校作業療法に関して、都議会議員向け勉強会実施のためのプログラム及び講師の選定に関する都議との打ち合わせ
4. 認定NPO法人フローレンスのインクルーシブテックイベント開催への協力
5. 一般社団法人日本支援技術協会の東京都障害者

デジタル技術支援総合基盤整備事業利用相談業務への協力

主な内容は会員派遣になると思いますが、5.に関しては各ブロックとの連携の必要性を感じており、会長退任後も私が担当する考えです。

おわりに、都士会財政のことをお伝えしておきます。

2026年度の予算案も事業を縮小せず実施する考えですので赤字になりそうです。都士会財源の基本は会費収入であり会員数が増えれば豊かになりますが、ここ数年伸び悩み状態です。現在の都士会員数は2508名（3月の理事会報告）。OT協会の東京都所属協会員数は3195名（4月2日時点）です。協会員＝士会員が実現することで687（3,195－2,508＝687）名分の士会費増が見込まれると思ったのですが、現在協会員であるが士会員でない人を強制的に士会員にして、士会費を払わせることは法的にできないことが分かりました。また、協会費と士会費の一括納入も全士会の意見が統一できず先送りになりました。OT協会では入会者に対して士会入会を呼び掛けてくれるようですが、都士会としては今後も協会員≠士会員の状態が続くことを前提にして財源の安定を図る手段を考えていく必要があります。

物価高騰で経費が嵩んでいます。特に印刷代や郵送費が大幅に値上がり、広報部の予算を圧迫しています。皆様の負担を増やすことは避けたいので、差し当たり、ニュースの電子化などで経費削減を図ることなど理事会で検討しています。

以上、長い間ご支援頂き、有難うございました。

6月に新たな会長が決定されます。新会長の下、当会が必要とされる組織として更に発展することを願っています。皆様には、ブロック活動や派遣事業などに参加頂き、ご自身の繋がりを広げると共に、各地域でOTの知名度を上げることにご協力下さることを期待します。よろしくお願いします。

教育部より：生涯学修制度について

東京都作業療法士会教育部 部長 太田 萌

日頃より、教育部主催の研修会への参加および協力をいただき誠にありがとうございます。新年度を迎えましたので改めて新制度：生涯学修制度（OT協会入会：2025年度以降）についてご案内させていただきます。
※内容はすべて日本作業療法士協会（以下、OT協会）HPに掲載されております。詳細はOT協会HPをご参照ください。下部QRコード読み込みにて閲覧が可能です。

【生涯学修制度の必要性について】

作業療法士が活躍する臨床実践現場領域の拡大と同時に、作業療法士有資格者の質の担保の必要性が求められています。そこで、**標準的な作業療法士の質と量を担保していくために**OT協会がより参画しやすい研修制度として生涯学修制度を2025年4月より開始しました。生涯学修制度が導入されたことにより新たに構築された制度である登録作業療法士、旧制度より引き続き運用される認定作業療法士、専門作業療法士の量を臨床現場に確保することで、臨床現場の作業療法士の質の担保と向上を期すことができ、さらには政策等における渉外活動においても有意な根拠資料として活用できると考えられています。まずは、**登録作業療法士の取得を目指してください。**



〈登録作業療法士と認定作業療法士の臨床現場で目標とする量（数）〉（2030年度までを目安）

- 登録作業療法士：3万人以上（会員6万人の場合）
- 認定作業療法士：8千～1万2千人（対象が会員6万人の場合）

【登録作業療法士制度の進め方】

登録作業療法士制度は、生涯学修制度の基盤です。登録作業療法士制度は前期研修と後期研修の計5年間で計画されており、臨床実践現場による実地経験と臨床に即した座学と演習で構成されております。前期研修の講義はすべてeラーニングとなっており、旧制度に比べ時間的制約が少なく受講しやすい環境となっています。後期研修の講義・演習は各都道府県士会が2027年度より少しずつ開催を開始する予定となっています。

なお、実地経験の内容につきましてはOT協会HPをご参照いただいたうえで、勤務先の作業療法士の責任者と確認のうえ進めていくようにしてください。

【問い合わせ】

本ニュース、OT協会HPについて不明点や確認事項がある場合には東京都作業療法士会HPよりお問い合わせください。

研修案内

2026年度 現職者選択研修（老年期領域）開催のお知らせ

日時：2026年7月26日（日） 9：00～16：30予定（8：45～ 接続可能）

定員：90名

場所：ZOOMによるオンライン研修

参加費：会員4,000円、非会員8,000円

申し込み：2026年5月12日（火）～（※区分により申し込み開始日が異なります）

申し込み期限：2026年7月21日（火）

※詳細は東京都作業療法士会HPまたはQRコードをご参照ください。



2026年度現職者選択研修（必修）MTDLP 基礎研修についてのお知らせ

〈第1回〉対面開催

日時：2026年8月下旬 9：30～17：30

定員：50名

参加費：4000円 ※区分によって異なります

申込期間：2026年6月1～27日まで東京都作業療法士会会員（会費納入済み）先行受付

2026年7月8日～7月30日 一般申込受付期間

〈第2回〉WEB開催

日時：2027年3月（予定）

定員：80名

※詳細は都士会HPよりご確認ください。（各開催日、2～3ヶ月前を目安に案内掲載予定です）

都立特別支援学校を「パラスポーツの拠点」に！

スポーツ支援委員会 担当理事 台東区立台東病院 楠本 直紀

皆さんのクライアントの中に、「退院後もスポーツを続けたい」「子どもに運動の機会をつくりたい」とお考えの方はいませんか？

東京都では、障害のある方やそのご家族が、身近な地域でスポーツを楽しめるよう、都立特別支援学校の体育施設（体育館・グラウンド等）を一般開放しています。私たちスポーツ支援委員会でも、この事業の活用を推進しており、今回ご紹介いたします。

この事業の魅力は、「学校」という安心できる環境と、充実した設備です。多くの学校では、車いすバスケットボールやボッチャ、バドミントンなどの種目が実施可能で、照明や空調の整った体育館を利用することができます。

また、障害の有無にかかわらず参加できる体験教室も開催されており、パラスポーツを始めるきっかけづくりや、仲間づくりの場としても最適です。

さらに、バリアフリー情報やトイレ設備（車いす対応・オストメイト対応等）も整備・公開されており、作業療法士としてもクライアントに紹介しやすい環境といえます。

ぜひ一度、「東京都スポーツ文化事業団」のホームページで、お近くの学校をご確認ください。

<https://www.tef.or.jp/business/school/index.html>

事業部アンケート調査回答の御礼と結果報告

事業部 帝京大学医学部附属病院 村上 元太

先日は、事業部によるアンケート調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

今回の調査の目的は長期休業・休職を経験した方、もしくは今後予定している方、既に離職・退職した方に關する実態と、そこから円滑な復職を支援するための課題を明らかにするためのものでしたが、当初の予想を大きく上回る計56名の20代から50代まで幅広い層の皆様から、大変貴重な実体験や切実な想いをお寄せいただきました。

集計の結果から、復職への不安や技術研鑽への切実な願い、そしてライフステージに応じた柔軟な働き方への強いニーズが浮き彫りとなりました。

今回皆様からいただいたご意見は、今後の作業療法士のキャリア継続支援や職場環境の改善、そして復職を後押しする研修プログラムの策定において、最も重要な指針として活用させていただきます。

今後は、雇用側への調査やマッチング支援の検討など、皆様の想いを具体的な形へと変えていく活動に邁進してまいります。

ご多忙の中、ご自身の経験を振り返り、真摯に回答してくださった皆様の温かいご協力に、改めて深く感謝申し上げます。今後とも、誰もが自分らしいキャリアを歩み、安心して働き続けられる環境づくりに邁進してまいります。

アンケートの回答結果はQRコードよりご覧になれます。



子ども委員会活動報告

子ども委員会 中山 瑠莉愛

近年、学校現場から作業療法士へのニーズが高まり、特別支援学校や支援級にとどまらず、普通学級からの相談・介入依頼も増えてきています。学校支援に関わる作業療法士を増やし、より良い支援ができるよう、子ども委員会では令和7年9月に日本作業療法士協会の後方支援を受け、「学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会（基礎編）」を開催しました。東京都教育庁や教育系大学の教授を講師に迎え、また子ども委員も講師となり、学校教育制度の基礎、東京都の特別支援教育の現状、さらに教育現場における作業療法士の役割や支援について学びました。この研修会を通して、作業療法士には学校文化を知り、教員と協働していく姿勢が大切だと感じました。都士会では、学校派遣事業に参画していただけるOTの募集も開始しています。今後も学校を理解して支援ができるOTの育成研修を企画していきます。

また今年度は、7月開催の第22回東京都作業療法学会の公募企画にエントリーしています。テーマは「5歳児健康診査の参画を契機に考える、作業療法士の役割」です。講義とグループワークを通じて、5歳児健康診査を経て繋がってきた子どもや保護者等のニーズにどのように応えていくのか、参加者の皆さんとともに考えていきます。作業療法士の専門性である「作業」に焦点をあて、子ども固有の作業にアプローチし、活動参加へ導くことを学び合います。皆様のご参加をお待ちしています。

報告：地域づくりサポーター実践報告会&交流会（Café&Bar）

東京都作業療法士会 地域づくり共創部 森本 美和

3月13日に地域づくりサポーターによる実践報告会&交流会を開催しました。

今回は、地域づくり共創部主催の人材育成研修を経てサポーターになられ、地域でご活躍されている河原崎崇雄さんと吉岡祐一郎さんに、各自の地域リハビリテーション活動支援事業の取り組みについてお話を伺いました。

会の後半では参加者・報告者・地域づくり共創部部員の合計25名で、飲食を伴う交流会に移行し、意見交換や相談をしあう貴重な時間となりました。

地域づくりサポーターとは、地域支援に資する各種研修受講者や地域支援事業実践者で構成される都士会のサポーター制度の一つの役割です。

地域づくり共創部では、地域共生社会の構築に寄与する作業療法士を目指し、『東京都内全域で地域における作業療法実践を推進する』という目標のもと、地域づくり人材育成事業に2023年から取り組んでいます。

地域づくり人材育成研修は基礎編、実践基礎編、実践編と3部構成となっており、修了後は修了証を発行し、地域づくりサポーターとして登録させていただいております。

地域での実践に興味・関心のある皆様の受講を地域づくり共創部一同お待ちしております。

「認知症の方との座談会」から考える： 病気ではなく「一人の人」として向き合う重要性

認知症の人と家族の生活支援委員会 村島 久美子（認知症介護研究・研修東京センター）

2026年3月15日、「認知症の方との座談会」を開催し、若年性アルツハイマー型認知症と診断された藤島岳彦さんをゲストにお招きしました。

藤島さんは、ネクタイが締められないといった変化と同僚の強い勧めがあり、診断を受けましたが、漠然とした不安から解放されたと語った様子が印象的でした。現在実践されている生活の工夫は、症状がありながらも、ご自身のQOLを維持するための具体的なものでした。例えば、安全・安心対策として持ち物にAirTagを付ける、ガスコンロを使用する時は必ずタイマーを使う、調理には1つで何品も焼けるトーストプレートや吹きこぼれを防ぐ道具を活用するなど、参加者にとって「目から鱗」となる情報が多数紹介されました。また、発信を続ける者として文章作成時にはAIを使わず、自分の言葉として伝えるというマイルールも話してくださいました。藤島さんが今後行いたいことは、富士登山！

私たちは専門職として、時に人を「病名・障害名」で括りがちですが、今回の座談会は、認知症とともに生きる人であっても、「一人の人」として当然の権利と尊厳をもって生活を送るという、当たり前の視点に立ち返らせてくれる貴重な機会となりました。今回の学びを活かし、私たちは、病気や障害ではなく、その人の個性や願いに寄り添い、共に生活の工夫を考え、その人らしい人生を応援していくことの重要性を再認識しました。



2026年度 学術誌無料閲覧サービス

東京都作業療法士会 会員の皆様は、専用アカウント（ID・PASS）を用いて
メディカルオンライン掲載の 当会学術誌「東京作業療法」を無料で閲覧できます

会員の方はログインしてください

ID :

パスワード :

ログイン

学術認証の方はこちらへ

ID・パスワードをお忘れの場合 ▶
ログインできない場合 ▶



巻頭言

東京圏における作業療法士の移動支援

全文PDF

を発刊するに至りました。東京圏作業療法士会も学術が多数にのたるようになり、平々事業に関わっていただく会員の方々も増えております。地域のネットワークにおいても部員や委員の方々とお会いする機会が増え、東京都作業療法士会のつながりから地域での連携に広がりを感じるようになりました。事務局長という日々の事業を見つめる立場として「東京作業療法」も多くの方々にご読いただける学術誌へと成長していることを実感しております。

さて、第5巻となる今回は「東京の移動を考える」というテーマの特集となりました。「東京の移動」に皆さまはどのような印象をお持ちでしょうか。きっと多くの方々の印象は、朝から夜まで道路も線路も混雑していて沢山の人が行き来している、といったところではないでしょうか。また、作業療法士が支援する場合のイメージは、公共交通機関が混雑している分、移動に少しは支援！おおいというものがあ



ログイン画面で
専用ID/PASSを入力します

ログインID	パスワード
1100007283-11	ywpbj7we

【ご利用に関するお問い合わせ】
東京都作業療法士会 学術部 : henshu@tokyo-ot.com
会員以外の方のご利用、または無断での転載、複製、転用等はお控えください。

令和8年度診療報酬改定の概要

保険部担当理事 松岡 耕史

令和8年度診療報酬改定の内容が示されました。紙面の都合上、OTに関する主な改定項目を抜粋して紹介します。詳細は厚生労働省中央社会保険医療協議会の資料をご確認下さい：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188411_00045.html

1. 発症早期のリハの更なる推進及び休日のリハの適切な評価
 - 早期リハ加算の評価と加算可能な期間の見直し、及び休日リハ加算の新設。
2. 回復期リハ病棟入院料等の評価体系及び要件の見直し
 - 入院料1を対象に、実績指数、排尿自立支援加算、退院前訪問指導実施割合等を要件に回復期リハ強化体制加算を新設。
 - 重症患者の基準の見直しと、対象に高次脳機能障害、脊髄損傷を追加。重症患者の退院時FIM等の改善患者割合の要件削除。
 - 入院料1から4、入院医療管理料及び特定機能病院リハ病棟入院料の重症患者新規受入割合基準、実績指数の基準を見直す。
 - 退院前訪問指導料を出来高にて算定可能。また、退院前訪問指導料と入院時訪問指導加算との併算定は出来ないこととする。
 - 回復期リハ病棟1から4までについて、土曜日、休日の1日当たりリハ提供単位数を見直す。
3. 回復期リハ病棟における高次脳機能障害者に対する退院支援の推進
 - 入院料1から5において、患者への高次脳機能障害者支援センター等の情報説明、及び対象機関へ患者情報の提供を要件。
4. リハ実績指数の算出方法及び除外対象患者等の見直し
 - 実績指数の算出でFIM「歩行・車椅子」、「トイレ動作」が5点以下から6点以上に上がった場合、分子のFIM運動項目利得に1点を追加。リハ実績指数の算出から除外できる割合を100分の20を超えない範囲に見直す。
 - 除外対象患者から「年齢が80歳以上」を削除、「FIM運動項目の得点が20点以下」について、疾患別リハの実施単位数が1日平均6単位を超えるものは除く、「FIM認知項目の得点は24点以下」を「14点以下」に見直す。
5. 医療機関外における疾患別リハ料の上限単位数の見直し
 - 1日3単位の医療機関外での疾患別リハ料の上限実施単位数を一連の入院において合計3単位に限り別に疾患別リハとみなす。
6. 疾患別リハ料の訓練内容に応じた評価を見直し、離床を伴わずに行う場合の区分を新設。
7. リハ総合実施計画評価料の評価の見直し、及び介護保険によるサービス利用が必要な者への目標設定等支援・管理料等を廃止。

福祉用具部シーティング研修会 「現場で役立つ車いすシーティングの考え方（基礎編）」

長谷川 瑞穂

今回の研修は、車いすシーティングの基礎について福祉用具部金子部長による講義と、測定等の実技、さらにメーカー・販売店5社によるプレゼンテーション及び体験を5グループ順々にまわるという内容でした。私は臨床15年目となりますが、経験を重ねるほど基礎の重要性を強く実感しています。基礎に立ち戻ること、そして多職種へ基礎を伝えることの大切さを日々痛感しています。特に施設においては、車いすは単なる移動手段ではなく、長時間を過ごす生活の場でもあり、車いすに乗車中の姿勢が生活や健康に大きく影響することを実感しています。今回、講義で得た基礎知識を踏まえ、実技で測定を行い、その後メーカー製品を実際に見て触れ、座って体験することで理解が深まりました。さらに、メーカーによる最新の人間工学やボディメカニクスに基づいた製品設計の説明や、シートのたわみ1～2度も見逃さない細かな調整への思い、さらにニーズに応えた多様な機能や製品の豊富さに驚きました。また、参加していた他の作業療法士の現場での悩みや工夫を共有できたことも有意義でした。今回の学びを明日からの臨床に活かし、より適切なシーティングの提供に努めていきたいと考えました。



自動車運転と移動支援対策委員会 研修会報告

自動車運転と移動支援対策委員会 委員 稲田 香鈴

2026年2月21日（土）東京都立大学荒川キャンパスにて、地域の移動支援における作業療法の役割と福祉用具の活用～実践報告と移動支援機器体験を開催しました。

東京都リハビリテーション病院の大場秀樹氏、山崎未音氏による実践報告では、墨田区八広・東墨田地域の車いすまち歩きバリアフリーマップについてや移動手段とおでかけ機会（社会参加）はセットであるという考え、整形疾患の高齢男性かつ難聴の方にシニアカーを導入し活動範囲が拡大した事例についてOTの強みを活かした電動モビリティの提案など、学ぶことができました。

移動支援体験では、アビリティーズ・ケアネット株式会社とセリオ株式会社にご協力を頂き、折りたたみ式電動車いすクイッキーQ50Rアルミニウムフレームや電動アシスト付き4輪自転車、シニアカーなどの機器のポイントを説明後に参加者の方々に実際に屋外で乗車してもらいました。自分にとって電動車椅子に乗車する機会が国際福祉機器展くらいであり、いざ乗車し、駅のエレベーターを使用・路面電車の線路が引いてある横断歩道を渡る・バリアフリーのトイレに入るなど屋外に出て体験をすることができました。操作や乗車の感覚、難しさ、緊張感は実際に行うことでしかわからない貴重な体験でした。

参加者には片麻痺の当事者の方がおり、研修会後に「ファンタスティック！」と発言されていました。（この度はご参加ありがとうございました。）

今回得た知識から、参加者の方々の地域移動支援の幅が広がられたらと思います。



就労支援委員会委員長交代のご挨拶

就労支援委員会 株式会社リニエR 扇 浩幸

本年度より、東京都作業療法士会就労支援委員会の委員長を前任より引き継ぎ、扇が担当することとなりました。委員会を設立当初から牽引されてきた齊藤前委員長のご尽力に敬意を表するとともに、その歩みを継承しながら、就労支援領域における作業療法のさらなる発展に寄与できるよう精進してまいります。

さて、今年度の活動としては、東京都作業療法学会への企画発信に加え、実践力の向上を目的とした事例検討会を2回開催予定です。また、2年ぶりに会員を対象とした主催研修会を企画いたします。内容はまだ決まっておきませんが、就労支援における作業療法士の役割や専門性について、より具体的かつ実践的な学びの機会を提供していく予定です。

また、昨年度より制度化された就労選択支援事業については、私自身の所属事業所においても指定申請を進めており、制度の理解と社会実装の両面から実践知を蓄積しております。こうした現場の経験も委員会活動に還元しつつ、制度の普及と質の高い就労支援の実現に貢献していきたいと考えております。

今後とも就労支援委員会一同頑張っておりますので、会員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

荒川区防災イベント「あらBOSAI」への参加報告

都士会災害対策担当（保険部担当理事） 松岡 耕史

2026年3月8日、荒川区で開催された防災イベント「あらBOSAI」に東京都作業療法士会として参加しました。本イベントは区民の防災意識向上を目的としており、当会は災害時におけるリハビリテーション専門職の役割を伝える機会として出展しました。

当日の取り組み

東京都作業療法士会では、ソックスエイドや新聞紙スリッパの作成体験を実施しました。多くの子どもが喜んで参加し、高齢の方からは「ソックスエイドは家でも使ってみたい」といった声が聞かれました。

作業バランス質問紙の体験も行い、生活における作業バランスについて説明しました。また、大規模災害時には作業バランスが崩れやすいことや、平時・災害時の双方においてその改善を支える作業療法士の役割について伝えることができました。

今回の防災イベントでは、荒川区の防災に関わる団体に加え、100名以上の区民と関わることができ、作業療法士の役割や災害時の支援内容について理解を深めてもらう機会となりました。



荒川区との災害支援協定

東京都作業療法士会は、2024年12月に荒川区と災害時の支援協定（災害時における高齢者等要配慮者への支援協力に関する協定）を締結しており、本イベントは平時からの連携強化の一環として参加しました。

荒川区や区東部東北部ブロックの作業療法士とともに、荒川区の防災担当や東京都理学療法士協会、言語聴覚士会と引き続き顔の見える連携を図っていきます。

今後の都士会の動き

東京都作業療法士会は、今後も荒川区をはじめとした自治体との連携を強化し、災害時に適切な支援が行える体制づくりを進めていきます。

また、災害時に避難所への支援を行える人材の確保と育成を目的に災害派遣登録バンクを設置しています。災害時の支援に関心のある会員の皆様には、災害派遣登録バンクへの登録をぜひご検討いただければ幸いです。

災害派遣登録バンクの詳細と登録方法は右記QRコードからご確認ください。

※東京都作業療法士会の災害対策に関わってみたい方は
下記アドレスへご連絡ください。

tokyootsaigaitaisaku@gmail.com（都士会災害対策担当：松岡）

登録バンク詳細



登録はこちらへ



ブロック活動報告

区東部・東北部ブロック

木村病院 井上 俊輔

去る3月、荒川区主催の防災イベント「あらBOSAI」が開催されました。本イベントは、子どもから大人まで、様々な体感・体験を通じて防災に関する知識や技術を学ぶことができる防災普及啓発イベントです。当日は、荒川区高齢者福祉課との共同運営により、東京都理学療法士協会と東京都作業療法士会にて「リハビリ体験ブース」を出展し、区東部東北部ブロック委員も参加しました。

OT体験ブースでは、OTを身近に感じていただくことを目的に、ソックスエイドや新聞紙スリッパの製作体験、作業バランス質問紙を用いた生活チェックを実施しました。開場とともに、お子様からご高齢の方まで幅広い年代の方々が途切れることなく来場され、休憩時間がないほどの盛況ぶりとなりました。リハビリ専門職が災害時にも関わることを地域の方々へ知っていただく貴重な機会となったのではないかと思います。

なお、当日の詳しい活動内容については、本号の「都士会災害対策担当」による記事にも掲載されておりますので、ぜひご覧になってください。

連絡先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com

西部・西南部ブロック

初台リハビリテーション病院 和仁 久見子

2026年度が始まりました。皆さんの職場にも新採用者が入職されたのでしょうか。新宿区・渋谷区・中野区・杉並区・世田谷区に在住・在勤の方は当ブロックに該当します。

職場内での交流や研修会もあると思いますが、地域の他の職場のOTも同じ作業療法士ですから、新年度を期に繋がってみませんか？

私たちのブロックでも都士会とコラボした企画やブロック独自の企画を検討中です。一步踏み出してみたい方、個別に質問したい方、気軽に下の連絡先にメールをください。お待ちしております。

連絡先：seibuseinanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック

長汐病院 清水隆志

暖かく過ごしやすくなり、新緑が増してきました。私たち区西北部ブロック（練馬区、板橋区、北区、豊島区）も新メンバーが加わり、新年度の活動実施に向けて活発に話し合いを行っております。また、皆様が興味を引くような企画を立てていますので、決まり次第ニュースなどでご連絡します。今年度もよろしくお願いします。

最後になりますが、当ブロックは各領域で従事していますスタッフが、気軽に相談し合い、活動しております。自身の領域以外の視野を広げたい、企画を運営してみたいなどブロック活動にご興味がある方は連絡先までご連絡を下さい。一緒に自己研鑽に励み、ブロックを盛り上げていきましょう！

連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック

東京科学大学病院 山本 司

昨年度は交流会や研修会を通じて、多くの方とつながることができました。研修の企画・運営を担っていただいたブロック委員の方、イベントに参加いただいた方々に心より感謝申し上げます。

今年度も、当ブロックではブロックの枠を超え、OTの皆様が参加したい！と思えるような研修やイベントを準備しています。今後は地域や職種を超えて、多くの方々がつながれるような企画を行っていきたいと思っています。ご興味あれば、ぜひともご参加のほどよろしく願いいたします。

また、当ブロックでは一緒にブロック活動を盛り上げてくださる方を随時募集しております。是非、一緒に活動しましょう！

連絡先→ ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック

西東京中央総合病院 岡上 正樹

3月13日に第22回オンライン座談会ツドイノバを開催いたしました。「OTの訪問リハビリを語り合おう！」をテーマに活発な情報交換が行われました。また、冒頭には地域づくり共創部とのコラボ企画で互いの活動宣伝を行い、OT同士の新たな繋がりを感じることができました。今年度もツドイノバ、園芸作業療法研修、そして7月に開催される都学会に向けて鋭意準備を進めております。皆様のご参加をお待ちしております。



ブロック委員も随時募集しております！ご興味のある方は下記連絡先までお問い合わせください！

→連絡先ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック

永生病院 平賀・上野

今年度も新たに多くの新人の皆さんを迎えましたが、日々の臨床はいかがでしょう。また、皆さんそれぞれが掲げた今年度の目標は順調に進んでいるでしょうか。コロナ禍以降、病院における作業療法の中で「作業活動」の活用がやや減少しているように感じています。そこで西多摩・南多摩ブロックでは、「施設を越えてつながる、学ぶ」をテーマに活動していきます。1年間の交流会テーマは「作業活動を通してOT同士が交流する」「OTが作業活動とその効果を感じる、学ぶ会とする」です。明日からの臨床に活かせる体験型の会や、オンライン・対面での交流を通じ、作業活動の意義を再確認できる場を皆さんと共に創っていきたいと考えています。皆さんの目標に合うようでしたら、ぜひご参加ください。

連絡先⇒nishitamaminamitama.block@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

まだまだ募集中「教えて！あなたの隣の素敵なOTさん！」

企画：東京都作業療法士会広報部

3月号でも掲載しましたが、東京都内の素敵なOTさんをまだまだ募集中です。素敵なOTさんを取り上げることでOTの仕事を一般の方にももっともっと知ってもらいたい、そんな願いからこの企画を考えました。あなたの隣（同僚、先輩、後輩、上司、部下、友人など）の素敵なOTさんをぜひ紹介してください。素敵なOTさんは今後広報部からの取材にてニュースや広報誌に掲載されちゃうかも！自薦もウェルカムです！

〈たとえばこんな方〉

- 患者さんを笑顔にするのは任せて！という笑わせ上手な方
- OTの資格を活かして意外なところで活躍されている
- 変わった経歴のある方 などなど

〈応募条件〉

- ご本人の承諾を得ていること
- 日本作業療法士協会及び東京都作業療法士会の会員であること
- ニュースまたは広報誌に掲載可能な方
- 都士会からの取材を受けてくださる方（オンライン可）



応募方法はQRコードを読み取ってFormsにご回答ください。たくさんのご応募お待ちしております！！

編集後記

広報部担当理事をしております水口寛子です。現在は第一子の子育て中で育休を取っております。一年は育休を取りたいと考えていますが、私の居住地がどうやら保育園激戦区のように、枠が空いているうちに預け先を確保した方がいいのかと、保活を始めたところです。ただ、2度と戻らない赤ちゃんの時代をもう少し長く一緒に過ごしたいのが本音です。都士会活動はコロナ禍でオンラインが定着したおかげで何とか継続できています。今年はまだ難しいですが、いつかは子どもを連れて学会に参加したいと考えています。さて、今回の巻頭言は田中会長にお願いしましたが、田中会長は今限りで会長を退任されるとのこと。今後も都士会には残ってくださるとのことですが、何とも一つの時代が終わるといった寂しい気持ちも致します。そんな中、まだまだこの東京には知られざるOTの逸材がいるのではないかと考え今回の「教えて！あなたの隣の素敵なOTさん」という企画を考えました。まだまだ募集していますので、奮ってご参加ください。

水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL：03-6380-4681 FAX：03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。